

「われわれ」の解体の中で

# 歴史と思想

——時代の深層から 伊藤述史

A5版上製 428ページ 定価4950円(本体4500円+税10%)

本書はタイトルの通り、歴史書であり思想の書でもある。

本書の構成 第1部 戦後史の宿痾 第2部 吉本隆明論

第3部 情況からの問い 第4部 文学と宗教

第1部「戦後史の宿痾」では、安倍政権以来顕著となった国家主義的・排外主義的ナショナリズムにもかかわらず、現在の日本は政権も大衆も、同盟国としての他国を防衛するという<sup>アメリカ</sup>大国の行動は、つねにその大国自身の戦略的利益に基づいてのみ遂行されていくことを忘れていないように見える。この矛盾の根源をさぐるために、天皇制、憲法、日米安保などの抱える課題を敗戦直後にまで遡り政治学者として丁寧<sup>丁寧</sup>に検討している。

このような矛盾をさぐることは、国と国との関係だけでなく、現代社会の中で人と人との繋がれるのかという問いとつながっているのではなからうか。筆者の関心は、学問を越えて「われわれ」一人一人の人間が生きるということの根源的な意味の一端を見通すことに向けられてくる。

国の歴史を跡づけることは、史料や関係者の記憶をたどることである程度可能かもしれない。しかし、人と人との関係の歴史はどのように跡づけられるのか？

第2部「吉本隆明論」では、現在の排外主義的なナショナリズムがもたらした課題を原理的に考察していくための糸口を探り、吉本隆明の多方面にわたる思想的な営みのなから、とくに歴史についての捉え方、戦争論、親鸞論について考える。親鸞論については、第4部の「文学と宗教」と重なる。

第3部「情況からの問い」では、超情報化社会のもとでのイデオロギーや知の変質を踏まえて、一人の人間がもう一人の人間とどのように繋がりが得るのかという課題を根本から考える。

第4部「文学と宗教」では、小林秀雄、三島由紀夫、石原吉郎、金子光晴、シモーヌ・ヴェイユ、セーレン・キルケゴール、北村透谷、本田哲郎といった、身近に感じ共感をもって読んできた思想家、文学者、信仰者の思惟によりそって、人間の生きざまと死を貫く宿命を見つめようとする。



発行所 (株) 千書房

〒222・0011 横浜市港北区菊名5・1・43 菊名KSマンション 301号

TEL: 045・430・4530 FAX: 045・430・4533



発売所 (株) 人文社会科学書流通センター「JRC」

〒101・0051 東京都千代田区神田神保町1・34 風間ビル1F

TEL: 03・5283・2230 FAX: 03・3294・2177

ご発注は(株)JRCまで FAX 03-3294-2177

(切り取り線)

注文カード	
取次店	書店名
注文数	冊
歴史と思想 ——時代の深層から 伊藤述史著 定価 4500 円+税	
発行所 千書房 TEL 045-430-4530 FAX 045-430-4533	
 9784787300584	
 1923031045002	
ISBN978-4-7873-0058-4 C3031 ¥4500E	